



FUKUOKA
PREFECTURAL
POLICE 2021



ICTで警察の未来を変える

思いだけでも、力だけでも

Profile

総務部 情報管理課 システム係(取材当時)
平成8年採用 警察行政職員(情報処理)
九州大学 工学部応用原子核工学科 卒業

きっかけ

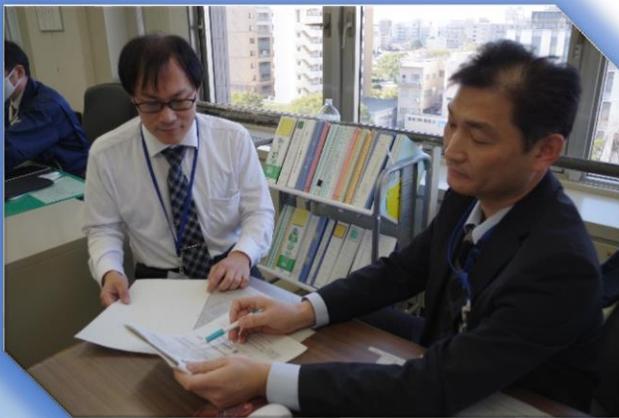
「コンピュータに関する仕事をしたい、地元福岡で働きたい」という思いから、福岡での仕事を探していたところ、当時、福岡県警察・科学捜査研究所で勤務していた父から、「県警で情報処理選考の行政職員を募集している」と紹介を受けたのがきっかけでした。前職で取得した情報処理の資格が功を奏し、無事合格、以来24年勤務し、今日に至っています。



やりがい

情報処理選考の警察行政職員は、情報処理に関する専門的知識・技能を活かし、主に第一線警察活動を支えるシステムの開発・維持管理を行っています。

直接県民の方と接することはありませんが、自分が開発したシステムにより、福岡県警察1万2千人の職員の仕事が合理化され、それにより、より多くの警察官が犯罪の予防や犯人の逮捕に力を注ぐことができます。結果として県民の安全・安心を守ることにつながり、大変やりがいのある仕事であると思います。



印象に残ったエピソード

今から15年ほど前、ある業務システムを構築する機会がありました。しかしながら、当時予算はなく、あるのはデスクトップ型パソコンが1台だけでした。それでもなんとか実現できないか思いを巡らせ、雑誌の付録にLinuxのDVDがついていたのを思い出し、それをパソコンにインストールしてWebシステムで構築することにしました。

Webシステムでの構築は初めてでしたが、ブラウザに「Hello!」の文字が返ってきたときには、「とりあえず、一本道を通した」と、本当にうれしかったのを覚えています。それからインターネットの情報を頼りに、少しずつその道を広げ、完成させました。

以来10年以上、特に大きな障害もなく稼働を続けていましたが、つい先日、後輩の手により、より堅牢なシステムへと生まれ変わりました。

自分が開発したシステムは、いわば自分の子供のようなものです。あるもので工夫をし、利用者の意見を聞き、改良を重ね、少しでも多くの人に便利に使ってもらうことがシステム開発の醍醐味だと私は思います。更に警察においては、このことが結果として県民の安全・安心につながる、大変感慨深いものがあります。

職場環境

現在福岡県警察では、主にVisual Basic 又は C#を使用して業務システムを開発していますが、言語、プログラミングに関する経験がなくても最初は諸先輩と一緒に進めていくので心配は無用です（もちろん、能力的には、採用試験時に確認しますが…）。

また今後は、AIやRPA等の先端技術の活用、警察行政のデジタル化等も進めていく予定であり、とにかく、ICTで「警察業務をより便利に、高度にしたい、こんなことを試してみたい」、そういった意欲、自由な発想があれば、活躍の場は無限にあると思います。

警察学校での生活

25年も前の話になりますが、同期生として30名余りと一緒に警察学校に入校し、男性は6名ずつ相部屋となり、寝食を共にしました。

警察学校という厳粛な空間にあっては、共同生活は心強いものです。1ヶ月という短い期間でしたが、最後には研修旅行で長崎に1泊旅行し、濃密な関係を築きました。

以来、「同期の絆」は、心の拠りどころです。

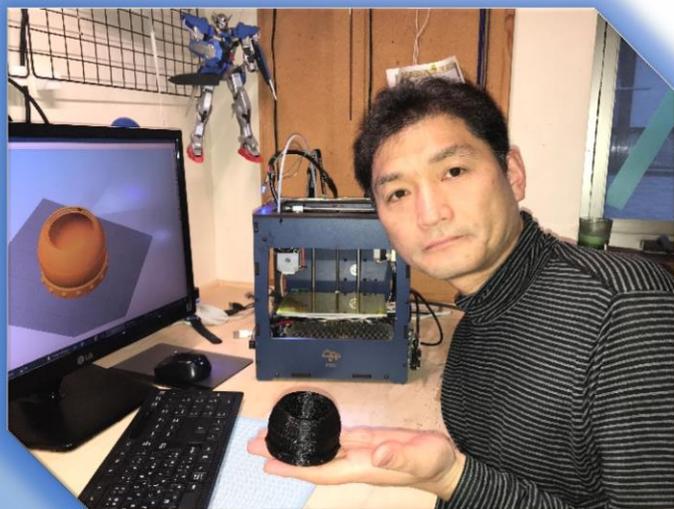


休日の過ごし方

現在福岡県警察では、ワークライフバランスに力を入れており、自分のライフスタイルに合わせて、ある程度自由に休みを取ることが可能です。

休日は、体力作りも兼ねて、水泳(3000m)やジョギング(10Km)を(目標に)頑張っています。

また、コンピューターが好きで、小型の「Raspberry Pi」を使った工作や、3Dプリンター等で遊んだりするほか、最新IT技術にも目を向け、「これはあの業務にも使えるのではないか」等、いつの間にか仕事のことを考えていることもあります。



メッセージ

今、日本社会は、少子高齢化の加速や国際化の進展に加え、新型コロナウイルスとの共存等、働き方、生活様式が大きく変わろうとしています。また、菅総理の号令の下、行政のデジタル化が急ピッチで進められており、ICT技術者の活躍の場は、今後ますます広がっていくことでしょう。

福岡県警察もまたその選択肢の一つであると思います。「安全・安心な福岡の街への熱き思い」と「ICTスキル」を持つあなたと共に働けることを楽しみにしています。